

科目名 【英】	キャリアデザイン講座1 Course of career Design 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	火曜日	時限	7

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。 また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	医療系学生としての目標の設定、日々の過ごし方、また医療人としての心構えや、社会に向けての心構え意識付け、一流の選手の考え方や行いを、座学やセッションを通して学ぶ。
------	---

到達目標	医療系学生として、どこに出しても恥ずかしくないレベル、かつ卒業後社会人として即活躍できるレベルに到達する。
------	---

準備学習 時間外学習	その日の授業を、帰宅後の振り返りやワークで不完全な部分を完成させる。
---------------	------------------------------------

使用教材	配布プリント
------	--------

留意点 備考	
-----------	--

成績評価	(授業内) 筆記試験 100%
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	メンタル導入部	考え方やメンタルの重要性に気付き、今後の授業に役立てる。
2	目的、目標セット	個人の目的、目標を明確にし、日常生活のあり方に役立てる。
3	メンタルブレイン トレーニング1	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
4	メンタルブレイン トレーニング2	オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。
5	栄養学からみる 内臓の仕組み	栄養学からその栄養がどの様に体で使われているのかを知ることで、内臓の仕組みなどに興味を持ち学ぶ事ができるようになる。
6	勉強の仕方1	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気付き工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。
7	勉強の仕方2	自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気付き工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。
8	経営の為の知識	独立開業に当たってのお金と経営に関して、その関係性と意味を学び、経営には何が必要かを説明できる。
9	柔道整復師の仕事について	自分になろうとしている、柔道整復師とはどんな仕事をするのかを画像を踏まえながら創造し、自分になりたい柔道整復師像を具体的に説明できる。
10	スポーツエンタメ トレーナー1	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーとはどんな仕事をするのかを説明できる
11	スポーツエンタメ トレーナー2	スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる
12	高齢者からみる 柔道整復師の役割	高齢者の特徴を学び、柔道整復師がどの様に関わらべきかを説明できる。
13	一般手技療法1	後療法で必要な基礎的な手技療法を行う事が出来る。
14	一般手技療法2	後療法で、足を手技療法で施術できることが出来る。
15	一般手技療法3	後療法で、臀部を手技療法で施術できることが出来る。

科目名 【英】	キャリアデザイン講座2 Course of career Design 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	火曜日	時限	6

担当教員	尾崎 貴汎	実務者経験	ホリスティックメディカルジャパン 代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。 また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。
------	--------------------------------

到達目標	身体の全身を筋肉を把握し、慰安目的の手技療法が出来るようになる
------	---------------------------------

準備学習 時間外学習	学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。
---------------	---

使用教材	副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい
------	------------------------------

留意点 備考	
-----------	--

成績評価	実技テスト100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	一般手技の知識と技術	後療法で使用する手技の必要性や考えを説明できる。
2	足裏	手技を用いて足裏の施術が出来る。
3	下腿	手技を用いて下腿の施術が出来る。
4	大腿後面	手技を用いて大腿後面の施術が出来る。
5	臀部	手技を用いて臀部の施術が出来る。
6	前半までの復習	足裏から臀部までの一連の流れを把握し、お互いに評価し満足いく施術が出来る。
7	背部	手技を用いて背面の施術が出来る。
8	肩甲骨周囲	手技を用いて肩甲骨周囲の施術が出来る。
9	肩	手技を用いて肩の施術が出来る。
10	腰部	手技を用いて腰部の施術が出来る。
11	頸	手技を用いて頸の施術が出来る。
12	前面の下腿	手技を用いて前面の下腿の施術が出来る。
13	前面の大腿	手技を用いて前面の大腿の施術が出来る。
14	試験	実技試験
15	振り返り	前期の実技試験の反省点と向上点の洗いだし

科目名 【英】	栄養学 1 Nutrition 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	木曜日	時限	6

担当教員	前田 美紀子	実務者経験	1989年8月～1998年4月病院に所属。2000年4～10月・2001年10月～2003年4月給食委託会社に所属。栄養士・管理栄養士業務を行う。
------	--------	-------	---

学習内容	(1)人と社会の健康の維持・増進に役立つ栄養学の基礎知識を学ぶ。 (2)スポーツ選手の世代別の健康、また、競技力の向上に対応できる栄養学の基礎知識を学ぶ。 (3)スポーツ障害の予防・治療に役立つリハビリテーション栄養の基礎知識を学ぶ。
到達目標	(1)正しい食生活を科学的に理解し、人と社会の健康の維持・増進に対応できるレベルに到達する。 (2)実際にスポーツ選手の栄養サポートに対応できるレベルに到達する。 (3)リハビリテーション栄養の知識を活用し、スポーツ障害の予防・治療に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・解剖生理学との関連を復習する。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	副教材として生理学の教科書を参考書として活用することが望ましい。

成績評価	講義テキスト・課題プリントの提出。期末試験80%+講義テキスト10%+課題プリント10%
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	基礎栄養学1	健康の維持・スポーツにおける食事の役割について説明ができる
2	基礎栄養学2	栄養と栄養素の違い、栄養素の分類と働きについて説明ができる 食品分類法を用いたバランスの良い食事について説明ができる
3	基礎栄養学3	炭水化物・脂質・たんぱく質の分類と機能について説明ができる
4	基礎栄養学4	ビタミン・ミネラル（無機質）の分類と機能について説明ができる
5	基礎栄養学5	栄養素の消化・吸収・代謝について説明ができる
6	基礎栄養学6	エネルギー収支バランス（消費量と摂取量のバランス）について説明ができる スポーツ選手のエネルギー必要量について説明ができる
7	スポーツ栄養学1	スポーツ栄養マネジメントの流れについて説明ができる 栄養サポートチームにおける柔道整復師の役割について説明ができる
8	スポーツ栄養学2	スポーツ選手の基本的な栄養摂取の考え方について説明ができる スポーツ選手の食生活のポイントについて説明ができる
9	スポーツ栄養学3	シチュエーション別（試合1週間前～前日）の栄養管理について説明ができる
10	スポーツ栄養学4	シチュエーション別（試合当日・試合後）の栄養管理について説明ができる
11	スポーツ栄養学5	スポーツ選手の熱中症予防と水分補給法について説明ができる
12	スポーツ栄養学6	スポーツ選手の目的別栄養管理について説明ができる
13	スポーツ栄養学7	スポーツ障害の予防・回復のためのリハビリテーション栄養（栄養管理）について説明ができる
14	スポーツ栄養学8	サプリメントの基本的な考え方について説明ができる アンチ・ドーピングの概要について説明ができる
15	前期試験解説	前期試験の解答・解説

科目名 【英】	栄養学2 Nutrition 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	土曜日	時限	6
担当教員	柳澤 高道	実務者経験	1980年 4月～1998年9月 兵庫医科大学 歯科口腔外科 1998年10月～2020年3月 宝塚市立病院 歯科口腔外科 2020年 4月～現在 耳原総合病院 歯科口腔外科				
学習内容	医療人として必要な栄養の基礎知識を学ぶ。						
到達目標	ヒトにおける五大栄養素の役割と働き、代謝について理解し、栄養摂取の重要性について説明できるようになる。						
準備学習 時間外学習	解剖学・生理学との関連を復習する。						
使用教材	配布プリント						
留意点 備考	副教材として生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。						
成績評価	筆記試験（本試験100%）						

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	細胞	元素、細胞 元素、細胞の構造を理解する。
2	栄養素	栄養と疾患について 5大栄養素、栄養と疾患の関わりを理解するし、説明することができる。
3	疾患 1	タンパク過剰症、欠乏症 脂質異常症 それぞれの身体における役割を知る。
4	疾患 2	糖質過剰摂取 ビタミン過剰症、欠乏症 糖尿病、ビタミン過剰症、欠乏症について理解する
5	疾患 3	ミネラル欠乏 電解質異常について理解する
6	消化と吸収 1	消化器の働きについて理解し、説明することができる。
7	消化と吸収 2	消化と吸収について理解し、説明することができる。
8	消化と吸収 3	消化と吸収について理解し、説明することができる。
9	水と体液	体液と排尿について理解し、説明することができる。
10	栄養素と代謝 1	栄養素、物質代謝について理解し、説明することができる。
11	栄養素と代謝 2	栄養素、物質代謝について理解し、説明することができる。
12	骨の代謝	骨の代謝について理解し、説明することができる。
13	総復習 1	栄養素の役割と働き、代謝について理解し、栄養摂取の重要性について説明できる。
14	総復習 2	栄養素の役割と働き、代謝について理解し、栄養摂取の重要性について説明できる。
15	試験解説	試験解説

科目名 【英】	医学英語 Medical English			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	水曜日	時限	7

担当教員	南 雅子	実務者経験	1989年より医療系専門学校にて医学英語指導/医師、薬剤師、東洋医療治療者、理学療法士、看護師、スポーツ関係者への英語指導
------	------	-------	---

学習内容	柔道整復師としておさえておきたい基礎医学英語(症状名、身体名、バイタル、骨、筋肉、組織、神経、血液、医療略語、病院各科)と整骨治療、スポーツトレーニングにおける専門用語や診療に使う表現などを学ぶ。
------	--

到達目標	医療従事者を目指す上で知っておきたい基礎医学英語を習得した上で、柔道整復におけるさまざまな診療表現などを使えるようにする。
------	---

準備学習 時間外学習	医学英語を学ぶ上での、人体や医療における基礎知識を医療や整骨の授業できちんと習得しておくことが望ましい。
---------------	--

使用教材	教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育社) 教材プリント
------	--

留意点 備考	実際の治療現場で使えるさまざまな英語資料の提供と使いかたの実践も行う。
-----------	-------------------------------------

成績評価	3回の発表と医療英単語の口頭試験を実施。 前期末試験75%+発表/口頭試験25%で評価する。
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	医学英語 1	授業内容の解説/柔道整復基礎用語/Ch. 1 受付の会話/英語の名刺/よく使う英会話表現 医学英語の概要を理解するを目標とする。 MA A~B
2	医学英語 2	柔道整復でよく使う症例名/Ch. 2 病院各科の名称、Ch. 3痛みの表現/発表(1)英語の自己紹介 柔道整復治療において必ず知っておきたい症例名を理解できることを目標とする。 MA C~D
3	医学英語 3	Ch. 3 痛みの表現、人体名/ペインスケールの活用方/顔の名称/柔道整復関連用語(3) さまざまな痛みの英語表現とペインスケールを有効に使えるようになることを目標とする。
4	医学英語 4	診療所の会話-受付、診察室(ペアワーク) Ch. 4 症状名/症状の表し方を学ぶ 整骨院の受付の会話、診察室での会話を練習する。 MA E~H
5	医学英語 5	発表(2)診療所の会話-受付、診察室(ペアワーク) /Ch. 5, 6内臓の名称、問診に使う表現 整骨院での受付、診察室での会話を次戦で行うことができることを目標とする。 MA I~N
6	医学英語 6	整骨治療におきえる原因、発症時の特定/Ch. 7内科診察室での英語/手指、足指関節の名称 治療に重要な原因や発症時の特定の行いかたのポイントをおさえることを目標とする。 MA O~S
7	医学英語 7	医療従事者の緊急時の英語/病院会話のヒント/Ch. 9, 10 バイタルサイン、救急/痛みの特定 バイタルサインの習得。緊急時に必要な表現を使えるようにすることを目標とする MA T~Z
8	医学英語 8	柔道整復の診療のための表現/病院会話のヒント/カルテ/Ch. 9, 10 外科、検査 診療に必要な表現を使えるようになることを目標とする。 MA カルテ略語
9	医学英語 9	骨の名称/Ch. 12 整形外科、整骨院(用語 フレーズ リスニング)/Eメール お礼 お見舞の資料 整形外科、整骨院のリスニング練習により現場の英語になれることを目標とする。
10	医学英語 10	関節可動域/膝靭帯/整骨院のリスニング練習/ch 13, 14 リハビリの用語、表現 可動域や膝靭帯の名称の習得、リハビリ用具や指示の言い方の練習をする。
11	医学英語 11	柔道整復治療の会話(syクリプト提出)/会計、薬/診療のキーフレーズ 柔道整復治療の会話表現を各自考えて作成することによる理解の向上を目標とする。
12	医学英語 12	発表(3)柔道整復での会話/柔道整復で使える表現のまとめ/多言語問診票(英語以外の5カ国用) 柔道整復の治療の会話の発表をすることにより現場で使えることを目標とする。
13	医学英語 13	口頭試験-柔道整復、医学英語関連用語/筋肉、骨の資料配布 柔道整復、医学英語の重要英単語の口頭試験による発話機会と定着を目標とする。
14	医学英語 14	前期末試験対策学習(柔道整復、整骨院の診療用語およびフレーズ医学英語、医療訳語など) 試験勉強を通して学習内容の復習を目標とする。
15	医学英語 15	前期末試験返却、見直し/整骨院の問診票/柔道整復資料配布/スポーツトレーニングの英語 前期末試験の見直しと、整骨院やスポーツトレーニングで使える資料の解説指導をする。

科目名 【英】	解剖学 1 Anatomy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	柳澤 高道	実務者経験	1980年 4月～1998年9月兵庫医科大学 歯科口腔外科 1998年10月～2020年3月宝塚市立病院 歯科口腔外科 2020年 4月～現在 耳原総合病院 歯科口腔外科
------	-------	-------	---

学習内容	人体の正常構造を学ぶ。まず解剖学を学ぶ上での基礎的事項を学習し、脈管系、内臓系へと知識を深めてゆく。
到達目標	人体の脈管系・内臓系の種類と仕組みを語ることが出来る。

準備学習 時間外学習	
使用教材	解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験（対面授業が全講義数の3/5以上実施された場合は本試験80点、小テスト20点とする。 ただし遠隔授業が2/5以上となった場合は本試験100満点とする。）
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	解剖学概論	人体解剖学概説 細胞の構造を理解し説明できるようになる。
2	解剖学概論	人体解剖学概説 組織、発生について理解し説明できるようになる。
3	脈管系 1	血管・心臓の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
4	脈管系 2	動脈の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
5	脈管系 3	動脈の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
6	脈管系 4	静脈の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
7	脈管系 5	心脈管系(胎児)・リンパ系の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
8	内臓 1	消化器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
9	内臓 2	消化器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
10	内臓 3	呼吸器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
11	内臓 4	泌尿器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
12	内臓 5	生殖器の役割 名称を理解し説明することができるようになる。
13	総復習 1	国家試験の過去問題を理解し解けるようになる。
14	総復習 2	国家試験の過去問題を理解し解けるようになる。
15	試験解説	試験解説

科目名 【英】	生理学 1 Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	水曜日	時限	5

担当教員	橘 吉寿	実務者経験	2003.11-現在 生理学・神経科学講座に在籍
------	------	-------	--------------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学1では、呼吸・循環など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原則を理解することを目標とする

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第4版（医歯薬出版）
留意点 備考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	生理学1	生理学概論 生理学とは何か・ホメオスタシスとは何かを説明することができる。
2	生理学2	細胞の構成要素を知る 核の構造・細胞小器官について説明することができる。
3	生理学3	細胞の基本的な機能を知る 細胞膜の機能・細胞内外における分子・イオンの流れを説明することができる。
4	生理学4	血液の組成と造血機構 血液の構成要素とその成り立ちを説明することができる。
5	生理学5	血液型・血液凝固・免疫のしくみ 血液の凝固機構、血液型のしくみ、免疫のしくみを説明することができる。
6	生理学6	心臓の構造・心筋の基本的性質1 心臓の構造について説明することができる。
7	生理学7	心筋の基本的性質2 心筋の収縮・伝導系について説明することができる。
8	生理学8	心電図・不整脈について 心電図のしくみ・不整脈について説明することができる。
9	生理学9	血管の構造と働き 血管の構造・機能と血圧の成り立ちについて説明することができる。
10	生理学10	局所循環とリンパ・脳脊髄液について 局所血液循環、リンパ・脳脊髄液の組成・機能について説明することができる。
11	生理学11	循環の調節 血圧のしくみ・制御機構について説明することができる。
12	生理学12	呼吸器の構造・換気のしくみ 呼吸器の構成要素・換気メカニズムについて説明することができる。
13	生理学13	ガス交換のしくみ 呼吸器ならびに血液におけるガス交換のしくみについて説明することができる。
14	生理学14	呼吸調節機構 呼吸調節機構を説明することができる。
15	試験解説	試験の振りかえり

科目名 【英】	柔道 1 Judo 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	金曜日	時限	5

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	他校(専門学校)を含め週12時間以上、17年間講師を務める
------	--------	-------	-------------------------------

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のTシャツ
留意点 備考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	自己紹介と 受講のきまり	自己紹介と授業を受けるための心構え、受講の決まりを把握する。
2	柔道衣の着方と 掃除方法	きちんとした柔道衣を着る方法を学び、掃除の方法を学び、出来るようになる。
3	礼法と受身	立礼・座礼の方法を知る。受身を学び、把握する。後ろ受身が出来るようになる。
4	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。後ろ受身、長座からの受身、中腰からの受身が出来るようになる。
5	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。後ろ受身、長座からの受身、中腰からの受身、二人組で受身が出来るようになる。
6	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。長座からの受身、中腰からの受身、二人組で受身の復習の後、横受身を学ぶ。
7	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。二人組で受身、横受身の復習後、移動後ろ受身・横受身が出来るようになる。
8	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。横受身、移動後・横受身復習後、前回り受身の方法を学び把握する。
9	礼法と受身	立礼・座礼の方法を復習する。移動後・横受身、前回り受身の回転が出来るようになる。
10	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、組み方、動き方、さばき方を学び把握する。
11	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、支釣込足を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。
12	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、大腰を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。
13	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。移動受身、前回り受身の復習後、一本背負投を学び、投げる・投げられる事が出来るようになる。
14	礼法と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の方法を把握し・練習し、試験が受かるようにする。
15	試験の解説と立技	立礼・座礼の方法を復習する。試験の解説後、立技の乱取り2分×3人し、柔道の楽しさと苦しさを学ぶ。

科目名 【英】	柔整総論 1 General Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	木曜日	時限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復師にとって最低限必要な骨折総論を学ぶ。
到達目標	柔道整復師国家試験に対応できるように骨折について説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	人体に加わる力 損傷時に加わる力	急性・亜急性について理解し、説明ができる。
2	骨の形態と機能	骨の構造について説明ができる。
3	骨損傷の概説 ・骨折の分類 1	骨の性状による分類、骨損傷の程度による分類の説明ができる。
4	骨損傷の分類 2	骨折線の方向による分類、骨折部と創部との交通の有無による分類、骨折の数による分類について説明ができる。
5	骨損傷の概説 ・分類 3	外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類、骨折の部位による分類、受傷後の経過について説明ができる。
6	骨折の症状 1	骨折の一般外傷症状と固有症状の違いについて説明ができる。
7	骨折の症状 2	骨折の全身症状について説明ができる。
8	骨折の合併症 1	併発症・続発症・後遺症の違いについて説明ができる。
9	骨折の合併症 2	骨折の併発症、続発症について説明ができる。
10	骨折の合併症 3	骨折の後遺症について説明ができる。
11	小児骨折	小児骨折の特徴について説明できる。
12	高齢者骨折	高齢者骨折の特徴について説明できる。
13	骨折の癒合日数 骨折の治癒経過	グルトの骨癒合日数について説明できる。
14	骨折予後・治癒に 影響を与える因子	骨折治癒の好適・不適条件を理解し、説明ができる。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整総論 2 General Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	月曜日	時限	5

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復師の業務範囲を理解し、治療法を実践できるようにする。患者の指導管理・外傷予防を身につける。
到達目標	柔道整復師としての治療法を知り各処置での注意点を理解する。 また、怪我を未然に防ぐための活動について理解し、説明することができる。

準備学習 時間外学習	学んだあと、プリントで復習する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬）、『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	配布プリントをしっかりと復習すること

成績評価	100%筆記試験
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	解剖学用語	方向と位置を表す用語・人体各部の名称を理解し説明できる。
2	骨格系総論	人体の区分線を理解し説明できる。
3	柔道整復師の沿革	沿革と業務範囲の理解し説明できる。
4	骨折の整復法 1	徒手整復時の配慮・非観血的整復の要点を理解し説明できる。
5	骨折の整復法 2	整復の一般的原則、屈曲整復・牽引勅圧法の理解し説明できる。
6	脱臼の整復法 1	脱臼の整復法・非観血整復の要点を理解し説明できる。
7	脱臼の整復法 2	整復の一般的原則、整復法の理解し説明できる。
8	軟部組織損傷の 初期処置	RICE処置法の理解し説明できる。
9	固定法	固定施行時の注意、固定後の配慮を理解し説明できる。
10	手技療法	手技療法の基本型を理解し説明できる。
11	手技療法の実際	手技療法を実際試して理解し説明できる。
12	運動療法	運動療法の基本型の理解
13	指導管理	患者の環境・スポーツ活動に対する指導管理が理解し説明できる。
14	外傷予防 1	身体の基礎的状态の評価を理解し説明できる。
15	外傷予防 2	特異的予防について理解し説明できる。

科目名 【英】	柔整総論 3 General Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1		前期	曜日	木曜日	時限	5

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------	-------	-------------------------------

学習内容	軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。
到達目標	解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。 軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）
留意点 備考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	関節の構造と機能 1	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
2	関節の構造と機能 2	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
3	関節の構造と機能 3	関節の構造について理解し、説明することができるようになる。
4	関節構成組織の損傷 1	靭帯損傷について理解し、説明することができるようになる。
5	関節構成組織の損傷 2	関節損傷の分類、靭帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。
6	関節構成組織の損傷 3	関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。
7	脱臼 1	脱臼の定義、各種分類、症状を理解し説明することができるようになる。
8	脱臼 2	脱臼の合併症、整復障害、経過と予後を理解し説明することができるようになる。
9	筋の損傷 1	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
10	筋の損傷 2	筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
11	腱の損傷 1	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
12	腱の損傷 2	腱組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
13	末梢神経損傷 1	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
14	末梢神経損傷 2	末梢神経損傷から治癒へ至る内容を理解し説明することができるようになる。
15	試験解説	前期試験解説を行い忘れていた内容を再確認する。

科目名 【英】	柔整基礎講座 1 Course of Basic Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	水曜日	時限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	正常な人体機能を学び、基礎知識を身につける。
到達目標	1. 人体機能について学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 各項目のポイントを習得、整理して他者に伝えることができる。

準備学習 時間外学習	生理学 1・柔整生理Aの講義内容の復習は必須である。説明できるよう整理しておくこと。
使用教材	PC・配布資料・生理学改訂第4版 彼末一之 著（南江堂）
留意点 備考	自ら学ぶ姿勢をもつようにすること
成績評価	前期末試験100%（筆記）

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	神経系の機能 1	神経系の構成【中枢神経系・末梢神経系・脊髄の機能】 神経系の構成について説明できる。
2	神経系の機能 2	興奮の伝導と伝達【伝導の原則・シナプス・神経線維の分類】 伝導の原則について説明できる。
3	神経系の機能 3	興奮伝達【シナプスの構造と機能・伝達の仕組み、特徴】 興奮伝導と伝達の違いについて説明できる。
4	神経系の機能 4	自律神経系【自律神経とは・伝達物質・機能】 交感神経と副交感神経の働きを説明できる。
5	神経系の機能 5	自律神経系【視床下部・大脳辺縁系の機能】 本能行動と情動行動について説明できる。
6	神経系の機能 6	脊髄反射【反射弓】 伸張反射の反射弓を図示することができる。
7	神経系の機能 7	大脳 高次機能【機能局在】 機能局在を説明することができる。
8	神経系の機能 8	大脳 高次機能【運動機能】 運動出力について説明することができる。
9	神経系の機能 9	小脳【協調運動】 機能と運動失調を説明できる。
10	体液の生理 1	体液【体液区分】 体液を区分して説明できる。
11	体液の生理 2	体液の調節【体液量、浸透圧調節】 体液調節の概要について説明できる。
12	血液 1	血液の機能【役割・血液組成・血球機能】 血液の機能と血球の種類について説明できる。
13	血液 2	血液型【ABO式血液型・輸血】 ABO式血液型について説明できる。
14	血液 3	血液凝固【止血機序・凝固因子・線溶系】 止血機序について説明できる。
15	総まとめ	前期内容の補填および復習 前期内容を説明することができる。

科目名 【英】	柔整基礎講座 2 Course of Basic Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	金曜日	時限	6

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復師に必要な解剖生理の基本的な知識を取得する。
到達目標	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）
留意点 備考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。
成績評価	期末試験100%（筆記）

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	細胞 1	細胞内小器官の役割を知る。 小器官の特徴を説明できる。
2	細胞 2	物質移動の基本を知る。 人に説明できる。
3	血液 1	成分とその役割を知る。 それぞれの特徴を知り、分類分けができる。
4	血液 2	構造と機能を理解し、人に説明できる。
5	心臓 1	解剖学的な構造を知り、説明できる。
6	心臓 2	心臓が動く仕組みを知り、説明できる。
7	心臓 3	心周期について知り、説明できる。
8	脈管 1	上行大動脈～上腕動脈までの繋がりを知り、説明できる。
9	脈管 2	上肢、頭部、胸腹部の繋がりを知り、説明できる。
10	脈管 3	下肢の動脈の繋がりを知り、説明できる。
11	脈管 4	全身の動脈の繋がりについて知り、説明できる。
12	脈管 5	静脈について知り、説明できる。
13	脈管 6	門脈系について知り、説明できる。
14	脈管 7	胎児循環について知り、説明できる。
15	総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。

科目名 【英】	物理療法学 Physical Therapy Equipment			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	月曜日	時限	6

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	-------	-------	-------------------------------

学習内容	物理療法機器の原理、使用方法、効果、禁忌について学ぶ。
到達目標	物理療法機器の原理、作用などを学び、診療に役立てることができるようになる。

準備学習 時間外学習	授業後は必ず、教科書を読み復習する必要がある。
使用教材	柔道整復学理論編第6版、プリント配布
留意点 備考	50分授業

成績評価	ペーパー試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	概要	物理療法の定義、分類について理解する。	
2	安全対策	インフォームドコンセント、禁忌について理解する。	
3	電気療法1	概要、電気刺激の3要素について理解し、説明できるようになる。	
4	電気療法2	低周波電気刺激療法について理解し説明できるようになる。	
5	電気療法3	TENS、低周波電気刺激療法、中周波電気療法の効果、禁忌などについて理解し説明できるようになる。	
6	温熱療法1	電動熱療法（ホットパック療法）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
7	温熱療法2	パラフィン浴療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
8	温熱療法3	水治療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
9	温熱療法4	輻射熱療法（赤外線療法）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
10	温熱療法5	変換熱療法（マイクロ波）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
11	温熱療法6	超音波療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
12	温熱療法7	光線療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
13	寒冷療法1	概要、伝導冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
14	寒冷療法2	対流冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	
15	牽引療法1	頸椎介達牽引の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。	

科目名 【英】	基礎包帯固定学 1 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	月曜日	時限	7

担当教員	岩崎英明、姫将司	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	----------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 アルミ副子、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備考	

成績評価	ペーパー試験100%、実技試験100%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	導入 1	実技ガイダンス 包帯の巻取り	
2	導入 2	包帯学を学び、説明できるようになる。	
3	指の包帯 1	隻指帯が巻けるようになる。	
4	指の包帯 2	全指帯が巻けるようになる。	
5	指の包帯 3	指頭包か帯が巻けるようになる。	
6	指の包帯 4	母指上行麦穂帯が巻けるようになる。	
7	指の包帯 5	総指包か帯が巻けるようになる。	
8	指の包帯 6	復習（これまでの包帯法を思い出し、名称を言われただけで目的の包帯法を行うことができる）	
9	評価	中間評価、緊張感を持った状態で患者に巻くことができるレベルに近づけることができる。	
10	手関節の包帯	手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。	
11	樹脂副子 1	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。	
12	樹脂副子 2	アルミ副子の基本的な使用方法、注意点を習得する。	
13	総復習	隻指帯、全指帯、指頭包か帯	
14	総復習	母指上行麦穂帯、総指包か帯、手関節上行麦穂帯	
15	まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。	

科目名 【英】	柔整解剖 A Anatomy of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3. 4
担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだか鍼灸整骨院にて従事する。 現在に至る。				
学習内容	骨の基本的構造、骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。						
到達目標	骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し熟知することができるレベルに到達し、後期の筋の理解に役立つようにする。						
準備学習 時間外学習	前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。						
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント						
留意点 備 考							
成績評価	授業毎に次回に小テストを実施。期末試験80%+小テスト20%で評価する。						

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	骨 1	総論（骨の役割・形状・表面に関する用語） 各論（鎖骨） 長骨・短骨など違いを理解し、鎖骨の名称を知り体表から熟知できるようになる。	
2	骨 2	総論（骨の構造・成長） 各論（肩甲骨） 骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から熟知できるようになる。	
3	骨 3	総論（骨の連結） 各論（上腕骨） 骨の成長や縫合の理解し、上腕骨の名称を知り体表からの熟知できるようになる。	
4	骨 4	総論（関節の種類） 各論（橈骨・尺骨） 関節の構造・種類の理解し、橈・尺骨の名称を知り体表から熟知できるようになる。	
5	骨 5	各論（手の骨・胸骨） 手根骨の名称と位置関係を知り体表から熟知ができ、肋骨切痕と胸骨角の関係を説明できるようになる。	
6	骨 6・関節 1	各論（肋骨・上肢の関節） 真肋と仮肋と浮遊肋の違いと上肢の関節の名称とそれに付属する靭帯・関節の動き知り説明できるようになる。	
7	骨 7	各論（寛骨・大腿骨・膝蓋骨） 腸骨・坐骨・恥骨・大腿骨の名称の理解と体表から熟知できるようになる。	
8	骨 8	各論（脛骨・腓骨・足の骨） 脛骨・腓骨・足の骨の名称の理解と体表から熟知でき、足根骨の位置を説明できるようになる。	
9	骨 9	各論（椎骨の基本的構造・頸椎・胸椎） 椎骨の基本形・頸椎の特別型・胸椎の構造の理解し説明できるようになる。	
10	骨 1 0	各論（腰椎・仙骨・頭蓋骨の分類・側頭骨・後頭骨） 腰椎・仙骨の構造や頭蓋骨の有無、側頭骨・後頭骨の名称の理解し説明できるようになる。	
11	骨 1 1・関節 2	各論（頭蓋骨・骨盤） 下顎骨や頭蓋骨の名称や眼窩を構成する骨や泉門や骨盤を構成する骨や分界線の理解し説明できるようになる。	
12	関節 3	各論（股関節から膝関節） 股・膝関節の名称とそれに付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
13	関節 4	各論（膝関節から足関節） 膝・足関節の名称とそれに付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
14	関節 5	各論（脊柱の連結・胸郭の連結） 脊柱と頭蓋、胸郭の関節の名称とそれに付属する靭帯と関節の動きを理解し説明できるようになる。	
15	体表解剖・筋	体表解剖P275～280：体表から骨の隆起、突起等を熟知できるようになる。 骨格筋の総論：起始・停止・動きの理解し説明できるようになる。	

科目名 【英】	柔整生理 A Physiology of Judo Therapy A			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	土曜日	時限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002～2010大学病院、公立病院に勤務、2010～開業
------	------	-------	-------------------------------

学習内容	神経、筋を中心に生理学を学ぶ。動物機能を基礎から学び、運動生理学の理解へつなげる。
到達目標	国家試験の生理学分野の知識を習得する。 解剖学、病理学、運動学、一般臨床医学をはじめとした他の科目の学修にあたり、必要な基礎知識を習得する。

準備学習 時間外学習	教科書、配布プリント、及びノートの予習復習を欠かさないこと
使用教材	教科書「生理学 第4版」(南江堂)
留意点 備考	

成績評価	筆記試験を試験期間中に実施し、筆記100%で判定する
------	----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋の生理 1	オリエンテーション、骨格筋の構造について説明ができる。	
2	筋の生理 2	骨格筋の収縮と弛緩について説明ができる。	
3	筋の生理 3	骨格筋と張力、筋電図について説明ができる。	
4	筋の生理 4	心筋と平滑筋について説明ができる。	
5	神経の生理 1	ニューロン、静止膜電位、活動電位について説明ができる。	
6	神経の生理 2	活動電位の伝導、シナプスについて説明ができる。	
7	神経の生理 3	神経伝達物質、神経系の構成について説明ができる。	
8	神経の生理 4	脳の構造、大脳皮質について説明ができる。	
9	神経の生理 5	高次機能(睡眠、覚醒、脳波)について説明ができる。	
10	神経の生理 6	自律神経の分類、分布について説明ができる。	
11	神経の生理 7	自律神経の構成について説明ができる。	
12	神経の生理 8	運動に関係する中枢神経について説明ができる。	
13	神経の生理 9	運動神経と運動単位について説明ができる。	
14	復習	前期のまとめ	
15	試験解説	前期試験解説、振り返り	

科目名 【英】	基礎医学講座 Course of Basic Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	前期	曜日	金曜日	時限	7

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	鍼灸整骨院で4年、付属整骨院で5年勤めていた。
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	医学を学ぶ上で最も基本となる体の骨格について学ぶ
到達目標	模型などを使い他者へ説明出来るようになる

準備学習 時間外学習	教科書の音読
使用教材	解剖学 骨模型
留意点 備考	実習室にて行う

成績評価	期末試験 80% 小テスト20%
------	------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	導入教育	この科目が今後に対して重要であることを周知してもらう
2	上肢帯	肩甲骨・鎖骨について学習しポイントの理解を深める。
3	自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。
4	自由上肢骨	上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。
5	上肢の筋①	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する
6	上肢の筋①	上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する
7	中間確認実技テスト①	上肢の骨、筋に対しての確認試験を行う。
8	下肢帯	寛骨について学習しポイントの理解を深める。
9	自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。
10	自由下肢骨	大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。
11	下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する
12	下肢の筋	下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する
13	中間確認実技テスト②	下肢の骨、筋に対しての確認試験を行う。
14	総復習	履修した内容について再度確認を行う
15	試験解説	前期末試験の解説

科目名 【英】	キャリアデザイン講座3 Corse of Career Design 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	土曜日	時限	6

担当教員	工忠憲正・江頭麻里	実務者経験	1987年4月より2019年3月まで31年間小学校に勤務し授業を行う。昨年度後期より、貴校において「キャリアデザイン講座」を担当している。
------	-----------	-------	---

学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す」「聞く」「書く」が一通りできるように学ぶ。 ・マナー&コミュニケーション単元ではグループワークを通じて、社会人になった際に『使えるマナー・コミュニケーション』を学ぶ。 ・今までのキャリアを振り返り、今後のキャリアをデザインする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として、また職業人として生きるためのスキルを身につけるとともに、実践的な場面でそれらを活用、さらには応用して用いることができるようになる。 ・自らのキャリアをデザインすることができる。

準備学習 時間外学習	次回の学習内容についての予習が必要。授業内で扱った内容の復習をする。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	本講義は、実習を交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	提出物（10%） 授業態度（積極的な発言等）（20%） 課題評価（70%）【各現段階予定】
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	【工忠】 オープニングプレスト	これからの社会を生き抜くために身に付けるべきスキルを知る。なりたい自分の姿を見つめ、そのために学ぶことの大切さを知る。
2	【工忠】 アサーション	アサーションについて学ぶ。アサーティブな状態で相手と接する話し方ができる。
3	【工忠】 傾聴スキル	傾聴スキルの基本を学ぶ。相手に対して好意的関心をもち、安心して話してもらえる聞き方ができる。
4	【工忠】 伝え方①	話し方の方法としてパートホール法、PREP法を学ぶ。それを用いて自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
5	【工忠】 コンセンサスゲーム	正解のない問いをグループで考え、納得解を導くことができる。
6	【工忠】 キャリアデザイン①	人は「なぜ働くのか」について考えることができる。
7	【工忠】 ロジカルシンキング	MECE、グルーピング、フェルミ推定などのロジカルトレーニングを行い、論理的に物事を考えることができる。
8	【工忠】 文章の書き方	テーマに沿って自分の考えを書く。自分の伝えたいことの要点をまとめて正しい文章を書くことができる。
9	【工忠】 チームビルディング	ワーク「ハンバーガーショップの新規出店をする」を行い、チームで協力して納得解を導くことができる。
10	【江頭】 マナー①	マナーの基本を身に付ける。「挨拶」「身だしなみ」「お辞儀」「前傾姿勢」「敬語」について学び、自己紹介ができる。
11	【江頭】 マナー②	これからの社会がどのように変わっていくのか、その社会を生き抜くためにどのようなスキルを身に付けなければいけないかを学ぶ。プレストを通して、自分の考えを自由に話すことができる。
12	【工忠】 キャリアデザイン②	ワーク「金の糸」を通して経験を振り返り、自分の価値観について知る。
13	【工忠】 キャリアデザイン③	ワーク「ライフライン」を通して、自己理解をさらに深め、これからのキャリアについて考えることができる。

14	【工忠】 キャリアデザイン④	ワーク「ヒーローインタビュー」「ジョハリの窓」を通して、他者を理解することを学ぶ。
15	【工忠】 キャリアデザイン⑤	ハプンスタンスと転機について知り、いかに偶然を味方にし、人生を豊かにすることを考えることができる。

科目名 【英】	社会福祉学 Social Welfare			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	火曜日	時限	7

担当教員	中川 るみ	実務者経験	大阪保健福祉専門学校、京都府社会福祉協議会、大阪地方検察庁などに勤務し、現在に至る。
------	-------	-------	--

学習内容	「人が人を助ける」という行為が、社会の制度として位置づけられたのは、数世紀前です。医療従事者の方々が日々の業務を通じて患者やその家族などからさまざまな相談を受けることが多くなりました。対人援助の基本姿勢や各制度の説明の必要性とともに、医療従事者には、特に高い人権意識が求められます。人権と制度を中心に学習します。
------	--

到達目標	人権と制度について理解し、柔道整復師としての心構えを身に着ける。
------	----------------------------------

準備学習 時間外学習	
使用教材	コメディカルのための社会福祉概論（講談社）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末筆記試験 100%
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	社会福祉とは	わが国の人口問題と課題について考え、説明することができる。
2	社会福祉の歴史（1）	慈善事業の背景について考え、説明することができる。
3	社会福祉の歴史（2）	社会事業と貧困対策について考え、説明することができる。
4	社会福祉基礎構造改革	社会保障改革の理解について考え、説明することができる。
5	社会保険（1）	社会保険の種類について考え、説明することができる。
6	公的扶助	生活保護の現状について考え、説明することができる。
7	子ども福祉	子どもに関わる法制度について考え、説明することができる。
8	障害者福祉	障害者総合支援法と虐待防止について考え、説明することができる。
9	高齢者福祉（1）	高齢者を取り巻く状況について考え、説明することができる。
10	高齢者福祉（2）	高齢者を対象とした法制度について考え、説明することができる。
11	介護保険制度	制度の概要について考え、説明することができる。
12	社会保障制度（1）	医療保障について考え、説明することができる。
13	社会保障制度（2）	年金保障について考え、説明することができる。
14	社会保障制度（3）	雇用保険・労災保険について考え、説明することができる。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	解剖学 2 Anatomy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	1	学 期	後期	曜 日	土曜日	時 限	7

担当教員	柳澤 高道	実務者経験	1980年 4月～1998年9月兵庫医科大学 歯科口腔外科 1998年10月～2020年3月宝塚市立病院 歯科口腔外科 2020年 4月～現在 耳原総合病院 歯科口腔外科
------	-------	-------	---

学習内容	国家試験に準じた学力を身につける。
到達目標	内分泌系、神経系、感覚器の構造を理解し、答えることができる。

準備学習 時間外学習	復習により内容理解を深めるようにする。
使用教材	解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験(対面授業が全講義数の3/5以上実施された場合は小テスト20点、本試験80点とする。 ただし遠隔授業が2/5以上となった場合は本試験100満点とする。)
------	---

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	内分泌 1	内分泌 (A内分泌器の働き B各種ホルモンの働き) 内分泌の構造と各種ホルモンの働きを説明できる
2	内分泌 2	内分泌 (A内分泌器の働き B各種ホルモンの働き) 内分泌の構造と各種ホルモンの働きを説明できる
3	神経系 1	神経系の基礎 神経系の区分と働きについて説明できる
4	神経系 2	大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳 脳の形態と機能について説明できる
5	神経系 3	脊髄 脊髄の構造について説明できる
6	神経系 4	末梢神経(脳神経・脊髄神経) 末梢神経を答えることができる
7	神経系 5	自律神経 自律神経を答えることができる
8	感覚器 1	外皮、視覚 外皮、視覚器について説明できる
9	感覚器 2	聴覚、味覚 聴覚器、味覚器について説明できる
10	感覚器 3	聴覚、味覚 聴覚器、味覚器について説明できる
11	感覚器 4	嗅覚 嗅覚器について説明できる
12	総復習 1	総復習① 内分泌と中枢神経系を繋げて説明することができる
13	総復習 2	総復習② 末梢神経系の構成、走行を説明することができる
14	総復習 3	総復習③ 感覚器の構造、機能を説明することができる
15	試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	生理学2 Physiology 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	水曜日	時限	5

担当教員	橘 吉寿	実務者経験	2003.11-現在 生理学・神経科学講座に在籍
------	------	-------	--------------------------

学習内容	柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ
到達目標	生理学1では、消化・排泄など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原則を理解することを目標とする

準備学習 時間外学習	予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる
使用教材	教科書『生理学』改訂第4版（医歯薬出版）
留意点 備考	副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	尿の生成と排泄1	腎臓の構造と機能を説明することができる。
2	尿の生成と排泄2	糸球体ろ過ならびに尿細管での再吸収機構を説明することができる。
3	尿の生成と排泄3	尿の排泄機構を説明することができる。
4	栄養と代謝経路1	生体に必要な栄養素を説明することができる。
5	栄養と代謝経路2	基礎代謝の概念を理解し、エネルギー代謝について説明することができる。
6	消化と吸収1	消化器の構成要素を知り、消化液の分泌機構を説明することができる。
7	消化と吸収2	消化器各器官での消化液ならびに消化ホルモンの作用機構を説明することができる。
8	消化と吸収3	栄養素ごとの消化・吸収のメカニズムを説明することができる。
9	体温調節のしくみ1	体温の生理的意義を学び、熱産生について説明することができる。
10	体温調節のしくみ2	熱放散機構を理解し、体温調節機構についても説明することができる。
11	内分泌総論	内分泌系の概要を理解する。
12	内分泌各論1	視床下部・下垂体ホルモンについて説明することができる。
13	内分泌各論2	甲状腺・副腎皮質ホルモンについて説明することができる。
14	内分泌各論3	副腎髄質・膵臓ホルモンについて説明することができる。
15	試験解説	試験の振りかえり 試験での問題点を振りかえる

科目名 【英】	柔道 2 Judo 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	5

担当教員	坂本 美和子	実務者経験	他校(専門学校)を含め週12時間以上、17年間講師を務める
------	--------	-------	-------------------------------

学習内容	初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。
到達目標	三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。

準備学習 時間外学習	自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。
使用教材	柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のTシャツ
留意点 備考	メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。

成績評価	実技試験80%、平常点(授業態度と出欠)20%で評価する。
------	-------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	礼法と受身 1	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、袈裟固が出来るようになる。
2	礼法と受身 2	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、袈裟固が出来るようになる。
3	礼法と受身 3	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、横四方固が出来るようになる。
4	礼法と受身 4	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、縦四方固が出来るようになる。
5	礼法と受身 5	礼法、移動受身、前回り受身、寝技、上四方固が出来るようになる。
6	礼法と受身 6	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技のルールについて説明することができる。
7	礼法と受身 7	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
8	礼法と受身 8	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
9	礼法と受身 9	礼法、移動受身、前回り受身が出来るようになる。 寝技(腹臥位)の相手の返し方が出来るようになる。
10	礼法と立技 1	礼法、移動受身、前回り受身、立技、連続技の為の大内刈が出来るようになる。
11	礼法と立技 2	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から大腰(釣腰)が出来るようになる。
12	礼法と立技 3	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から一本背負投が出来るようになる。
13	礼法と立技 4	礼法、移動受身、前回り受身、立技、大内刈から大外刈が出来るようになる。
14	礼法と立技 5	後期試験の内容を把握、習得することが出来る。
15	紅白試合	試合の礼法を習得し、昇段審査の実際を学ぶ。

科目名 【英】	柔整基礎講座3 Course of Basic Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	6

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	解剖学、生理学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。
到達目標	解剖生理学の神経系の構造を把握し、それぞれの特徴を理解し説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第4版（南江堂）
留意点 備考	毎回の授業範囲の問題を解けるように復習をする。

成績評価	期末筆記試験100%
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	消化器	消化器の解剖学的な名称を知る。全体像を理解し、基本構造を説明できるようになる。
2	消化器	舌の支配神経、胃、金運動について知り、説明できるようになる。
3	消化器	小腸の解剖学的な名称、働き、特徴を知り、説明できるようになる。
4	消化器、消化腺	結腸の特徴、消化液の分泌を知り、説明できるようになる。
5	消化と栄養素	栄養素の基本的なところを知り、消化の流れ、消化酵素について説明できるようになる。
6	消化器と内分泌	消化器に関係するホルモンを知り、説明できるようになる。
7	肝・胆道系	肝臓・胆嚢の解剖学的な特徴を知り、説明できる。
8	肝・胆道系	胆嚢・肝臓のはたらき、胆汁の作用について知り、説明できる。
9	泌尿器	腎の構造について知り、説明できる。
10	泌尿器	尿道の男女差、機能について知り説明できる。
11	泌尿器	腎機能（再吸収・分泌について）知り、説明できる。
12	泌尿器	尿細管の再吸収・分泌について知る。また再吸収・分泌に関わるホルモンを知り説明できるようになる。
13	泌尿器	排尿反射について知り、説明できるようになる。
14	総復習	消化器系・泌尿器系の演習問題を行い、知識の定着を図る。
15	総まとめ	全範囲の復習を行い、分からない箇所を確認し理解できる。

科目名 【英】	柔整基礎講座 4 Course of Basic Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	6

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院勤務 2014-東洋医療専門学校専科教員 現在に至る
------	------	-------	--

学習内容	正常な人体機能を学び、基礎知識を身につける。
到達目標	1. 人体機能について学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 各項目のポイントを習得、整理して他者に伝えることができる。

準備学習 時間外学習	柔整生理Bの講義内容の復習は必須である。説明できるよう整理しておくこと。
使用教材	PC・配布資料・生理学改訂第4版 彼末一之 著（南江堂）
留意点 備考	自ら学ぶ姿勢をもつようにすること

成績評価	前期末試験100%（筆記）
------	---------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	筋生理 1	筋組織【筋の分類と特徴】 骨格筋、心筋、平滑筋の特徴を説明できる。
2	筋生理 2	筋収縮【興奮収縮連関】 興奮収縮連関を説明できる。
3	感覚 1	視覚器【視覚器の解剖】 眼球構造を説明できる。
4	感覚 2	視覚【光受容のしくみ①】 光量調節と遠近調節の機序を説明できる。
5	感覚 3	視覚【光受容のしくみ②】 光受容と視覚伝導路を説明できる。
6	感覚 4	聴覚・平衡器【解剖】 聴覚器の構造を説明できる。
7	感覚 5	聴覚・平衡器【音と加速度の検出】 音と加速度の受容について説明できる。
8	感覚 6	嗅覚と味覚【嗅上皮、舌】 嗅覚と味覚の伝導路を説明できる。
9	生殖 1	性決定と性分化【遺伝的性とは】 遺伝的性と性分化について説明できる。
10	生殖 2	男性生殖【精子形成】 精子形成について説明できる。
11	生殖 3	女性生殖【性周期】 月経周期と卵巣周期を説明できる。
12	生殖 4	女性生殖【妊娠と分娩】 受精から分娩までを説明できる。
13	生殖 5	骨生理【骨組織】 骨組織について説明できる。
14	生殖 6	骨生理【カルシウム代謝】 Ca代謝に関わるホルモンを説明できる。
15	総まとめ	後期内容の補填および復習 後期内容を説明することができる。

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論 1 Clinical Judo Therapy Basic 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	7

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を体幹を中心として部位別に学び、整復法、固定法などの治療法を学ぶ。
到達目標	臨床現場でよく遭遇する骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%+口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	鎖骨骨折 1	【解剖、概説、発生機序、転位、症状】 鎖骨の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。
2	鎖骨骨折 2	【合併症、整復法、固定法、後療法、後遺症】 鎖骨骨折の後遺症を理解し、整復固定法を行うことができる。
3	鎖骨脱臼 1	【概説、胸鎖関節脱臼】 鎖骨周辺の靭帯について理解し、鎖骨脱臼の予後について説明することができる。
4	鎖骨脱臼 2	【肩鎖関節脱臼】 症状や固定法などについて説明することができる。
5	頭部・顔面の骨折 1	【解剖、頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折】 頭部の構造、通過する神経などを理解し、症状について説明できる。
6	頭部・顔面の骨折 2	【鼻骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折、下顎骨骨折】 それぞれの骨折の特徴について説明できる。
7	顎関節脱臼 1	【解剖、概説、前方脱臼】 顎関節の構造、付着する筋を理解し、転位や症状について説明できる。
8	顎関節脱臼 2	【後方脱臼、側方脱臼】 前方脱臼との違いについて説明することができる。
9	頭部・顔面の 軟部組織損傷	【打撲、顎関節症、顎関節捻挫】 顎関節症の分類と特徴について説明することができる。
10	頸椎の骨折	【解剖、頸椎の骨折】 頸椎・胸椎・腰椎の骨折を混乱せずに説明することができる。
11	頸椎の脱臼	【頸椎の脱臼および脱臼骨折】 頸椎の骨折および脱臼についての
12	頸部の 軟部組織損傷 1	【むちうち損傷、胸郭出口症候群、寝違え】 むちうち損傷および胸郭出口損傷の分類を覚え、それぞれの特徴について説明できる。
13	頸部の 軟部組織損傷 2	【頸部で注意すべき疾患】 整形外科領域の疾患を知り、説明することができる。
14	口頭試問	基礎各論 1 で学習した項目の口頭試問を行い、合格する。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論2 Clinical Judo Therapy Basic 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	水曜日	時限	7

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%＋口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	肩甲骨骨折①	肩関節部の筋肉などの構造、肩甲骨骨折の分類について説明できる。
2	肩甲骨骨折②	肩甲骨の各骨折の症状などの特徴について説明できる。
3	上腕骨骨折①	解剖頸、骨頭、大結節、小結節の骨折について説明できる。
4	上腕骨骨折②	近位骨端線離開、外科頸骨折について説明できる。
5	上腕骨骨折③	外科頸骨折について説明できる。
6	肩関節脱臼①	前方脱臼、後方脱臼について説明できる。
7	肩関節脱臼②	下方脱臼、上方脱臼、反復性肩関節脱臼について説明できる。
8	肩関節脱臼実技	整復法（ゼロポジション、スティムソンなど）を行うことができる。
9	肩関節部の軟部組織損傷①	筋・腱損傷（腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷）について説明できる。
10	肩関節部の軟部組織損傷②	スポーツ損傷（ベネット損傷・SLAP損傷）について説明できる。
11	肩関節部の軟部組織損傷③	スポーツ損傷（肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩）について説明できる。
12	肩関節部の軟部組織損傷④	不安定症、末梢神経障害について説明できる。
13	肩関節部の軟部組織損傷⑤	その他の疾患（五十肩など）や注意すべき疾患について説明できる。
14	口頭試問	口頭により肩部の障害について説明できる。
15	試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論3 Clinical Judo Therapy Basic 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	5

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	-------	-------	----------------------

学習内容	柔道整復学各論を胸・背部、腰部、上腕部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の復習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）・配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末試験90%+口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	胸・背部の損傷	胸・背部の解剖学的な構造と損傷の発生機序・症状について説明できる。
2	胸部の骨折（肋骨・胸骨）	胸部の骨折の発生機序・症状について説明できる。
3	胸椎の骨折	胸椎の骨折の発生機序・症状について説明できる。
4	胸椎の脱臼	胸椎の脱臼の発生機序・症状について説明できる。
5	その他の疾患について	その他の疾患について説明できる。
6	注意すべき疾患について	注意すべき疾患について説明できる。
7	腰部の損傷	腰部の損傷について説明できる。
8	腰椎の骨折	腰椎の骨折について説明できる。
9	腰椎の脱臼	腰椎の脱臼について説明できる。
10	腰部の軟部組織損傷	腰部の軟部組織損傷について説明できる。
11	上腕部の損傷（解剖と機能）	上腕部の損傷について説明できる。
12	上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
13	上腕部の軟部組織損傷	上腕部の軟部組織損傷について説明できる。
14	口頭試問	口頭により胸・背部、腰部、上腕部の障害について説明できる。
15	試験解説	後期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論4 Clinical Judo Therapy Basic 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	木曜日	時限	6

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	運動器の解剖、骨折・脱臼・軟部組織損傷を学び、鑑別に役立てる
到達目標	運動器の解剖と各損傷を結びつけて損傷を説明できるようになる

準備学習 時間外学習	小テストを行うため、前回授業の復習を行っておくこと。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	副教材として柔道整復学実技編教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%+口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	肋骨骨折 肋軟骨骨折 1	胸背部の構造を理解し、肋骨骨折の概説や発生機序について説明できる。
2	肋骨骨折 肋軟骨骨折 2	肋骨骨折の症状、合併症、治療法について説明できる。
3	胸骨骨折	胸骨周辺の解剖を理解し、胸骨骨折の概説や発生機序について説明できる。
4	胸・背部の解剖	胸背部の解剖について説明できる。
5	胸椎の骨折	椎骨周辺の解剖を理解したうえで損傷の発生機序・症状を説明できる。
6	腰椎の骨折	椎骨周辺の解剖を理解したうえで損傷の発生機序・症状を説明できる。
7	胸・腰椎の脱臼	胸・腰椎の脱臼について説明できる。
8	胸部の 軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷について説明できる。
9	腰部の 軟部組織損傷	腰部捻挫を関節性、靭帯性、筋・筋膜性に分けて理解することができる。
10	上腕骨骨幹部骨折 1	上腕部の解剖と機能を理解し、上腕骨骨幹部骨折の発生機序や症状について説明できる。
11	上腕骨骨幹部骨折 2	合併症、転位、後遺症について説明できる。
12	上腕骨骨幹部骨折 3	整復法、固定法、後療法、予後について説明できる。
13	上腕部の 軟部組織損傷	上腕部を走る末梢神経について説明できる。
14	口頭試問	基礎各論4で学習した項目の口頭試問を行い、合格する。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	臨床柔整学 基礎各論5 Clinical Judo Therapy Basic 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	水曜日	時限	6

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習（特に筋学）が必要。
使用教材	柔道整復学（理論編）配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験90%+口頭試問テスト10%で評価する。
------	--------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	オリエンテーション	柔道整復学を学ぶ意義について 授業の目的を答えられる
2	股関節損傷	股関節の軟部組織損傷1 各障害の特徴を説明できる
3	股関節損傷	股関節の軟部組織損傷2 各障害の特徴を説明できる
4	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 その他疾患を知る
5	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症の注意点を説明できる
6	股関節損傷	股関節の注意すべき疾患 変形性股関節症の注意点を説明できる
7	大腿部損傷	大腿部損傷 大腿部の筋肉の解剖を説明できる
8	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の特徴を説明できる
9	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の分類を説明できる
10	大腿部損傷	大腿骨骨幹部骨折 本骨折の治療上の注意点を説明できる
11	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷1 大腿部打撲について説明できる
12	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷2 大腿四頭筋肉ばなれについて説明できる
13	大腿部損傷	大腿部軟部組織損傷・注意すべき疾患 ハムストリングス肉離れの理解及び骨化性筋炎を説明できる
14	総復習	総復習 授業内容を再点検する
15	試験解説	解説・復習 後期内容を振り返り、ポイントを説明できる

科目名 【英】	基礎包帯固定学 2 Basic Method of Bandage and Fixation Procedures			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	7

担当教員	岩崎英明 、 姫将司	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。
------	------------	-------	-------------------------------

学習内容	基本包帯を巻けるようになる。 三角巾、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。
到達目標	基本包帯を巻けるようになる。 樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。

準備学習 時間外学習	時間外でも包帯を扱う時間とって、包帯に手を馴染ませることが必要です。
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	ペーパー試験100%、実技試験100%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	三角巾	三角巾で提肘できるようになる。	
2	肘の包帯	肘関節集合亀甲帯が巻けるようになる。	
3	副子作成 1	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。	
4	副子作成 2	各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。	
5	枕子作成	各種骨折、脱臼の固定に必要な枕子を綿花、ガーゼで作成する。	
6	肩の包帯 1	肩関節上行麦穂帯の巻き方を知る。	
7	肩の包帯 2	肩関節上行麦穂帯が巻けるようになる。	
8	肩の包帯 3	肩関節下行麦穂帯が巻けるようになる。	
9	樹脂副子 1	プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。	
10	樹脂副子 2	プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。	
11	特殊包帯法 1	デゾー包帯第 1 帯、第 2 帯	
12	特殊包帯法 2	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯	
13	特殊包帯法 3	デゾー包帯第 3 帯、第 4 帯	
14	総復習	三角巾、肘関節離開・集合亀甲帯、肩関節上行麦穂帯の復習練習を行う。	
15	まとめ	試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。	

科目名 【英】	臨床実習 1 Clinical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	月曜日	時限	5

担当教員	山田 靖典 堀口 晃一	実務者経験	(山田) 2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務 (堀口) 整骨院勤務 平成8年3月～平成17年7月
------	----------------	-------	---

学習内容	大関節の評価を行い施術の基礎を学ぶ。
到達目標	柔道整復師学科に入って良かったと思えるようになり、次年度に向け 勉学の意欲をわかす。

準備学習 時間外学習	筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。
使用教材	プリント資料
留意点 備考	抜き打ち小テストを実施

成績評価	授業評価、筆記テスト
------	------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	臨床実習について	臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たず	90分
2	SFMAについて	SFMA（評価法）の目的・ルールを覚える。	90分
3	頸椎評価法	頸椎の評価を知る。	90分
4	頸椎評価法	頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
5	頸椎治療法	頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
6	肩評価法	肩関節の評価を知る	90分
7	肩評価法	肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
8	肩治療法	肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
9	多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作評価を知る	90分
10	多分節屈曲評価法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
11	多分節屈曲治療法	体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
12	多分節伸展評価法	体幹の伸展動作評価を知る	90分
13	多分節伸展評価法	体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる	90分
14	多分節伸展治療法	体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする	90分
15	筋肉テスト	筋肉名を問いかけ起始停止を答える。作用は自分で動作を行う	90分
16	オリエンテーション	柔道整復師として必要な臨床の知識を説明することができる。	50分
17	手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分
18	手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分
19	手技療法	柔道整復師として必要な手技療法を行うことができる。	50分
20	物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
21	物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
22	固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
23	固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
24	固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
25	物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
26	物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
27	物理療法	柔道整復師として必要な物理療法を行うことができる。	50分
28	固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
29	固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分
30	固定療法	柔道整復師として必要な固定療法を行うことができる。	50分

科目名 【英】	柔整解剖B Anatomy of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	火曜日	時限	5

担当教員	小田垣 典行	実務者経験	2003年4月からおだがき鍼灸整骨院にて従事。現在に至る。
------	--------	-------	-------------------------------

学習内容	筋の名称、起始、停止、支配神経、作用と生体観測と生体計測を学ぶ。
------	----------------------------------

到達目標	筋の名称、起始、停止、支配神経を覚え、体表からその位置を理解することによって、筋の作用（動き）を理解する。
------	---

準備学習 時間外学習	前時間の復習と前期に行った骨の各部の名称の復習を行う。
---------------	-----------------------------

使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
------	----------------------------

留意点 備考	
-----------	--

成績評価	授業毎に小テストを実施する。期末試験80%+小テスト20%で評価する。
------	-------------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋 1	上肢帯の筋 上肢帯の筋の起始・停止・支配神経を知り、作用を説明できる。	
2	筋 2	上腕の筋 上腕の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。	
3	筋 3	前腕の屈筋 前腕の屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。	
4	筋 4	前腕の屈筋・伸筋 前腕の屈筋と伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また手根管を通過するものを説明できる。	
5	筋 5	前腕の伸筋 手の筋 前腕の伸筋と手の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また伸筋支帯の6つのトンネルを理解し、通過するものを説明できる。	
6	筋 6	下肢帯の筋（内・外寛骨筋） 内・外寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また筋裂孔、血管裂孔、梨状筋上孔・下孔を理解し、通過するものを説明できる。	
7	筋 7	下肢帯の筋（外寛骨筋） 大腿の屈筋・伸筋 大腿の屈筋・伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またハムストリングスを説明できる。	
8	筋 8	大腿の内転筋 大腿の内転筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またスカルパ三角・鷲足を説明できる。	
9	筋 9	下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋 下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。	
10	筋 10	下腿の屈筋 足の筋 顔面筋 咀嚼筋 下腿の屈筋、咀嚼筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。	
11	筋 11	舌骨上・下筋 浅・深頸筋 胸部の筋 舌骨上・下筋、浅・深頸筋、胸部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。	
12	筋 12	胸部の筋 腹部の筋 胸部の筋、腹部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また横隔膜の孔を通過するものを説明できる。	
13	筋 13	浅・深背筋 浅・深背筋の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。	
14	筋 14・骨 体表解剖 1	頭蓋底 体表解剖P280～287 頭蓋底の孔に通る血管・神経を説明できる。また体表から筋を触知、確認できる。	
15	体表解剖 2 映像解剖	頸部の三角 体表解剖P287～296 映像解剖 頸部の三角を構成するものを説明できる。脈管・神経等を確認、推定し説明できる。また生体計測を説明できる。画像診断の装置を理解し説明できる。	

科目名 【英】	柔整生理B Physiology of Judo Therapy B			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	土曜日	時限	5

担当教員	上田 純	実務者経験	2002年6月～2010年3月大学病院、公立病院に所属、2010年4月以降自身が代表するクリニックで歯科医師として診療に従事。
------	------	-------	---

学習内容	医療従事者として相応しい生理学の知識、思考能力を獲得する。
到達目標	人体の機能を理解することで、生理学のみならず、他の臨床系科目等も理解できるようになる。また医療従事者として必要な知識を身につけることができる。

準備学習 時間外学習	授業で学んだことは復習する。プリント、ノートだけではなく、該当する範囲の教科書も熟読すること。
使用教材	教科書「生理学 第4版」(南江堂)
留意点 備考	解剖学の関連部分も教科書等でチェックしておくこと

成績評価	筆記試験を試験期間中に実施し、筆記100%で判定する
------	----------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	筋①	骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて説明できる。	
2	筋②	興奮収縮連関について説明できる。	
3	筋③	筋と張力、長さの関係について説明できる。	
4	筋④	平滑筋、心筋について説明できる。	
5	感覚①	感覚の分類について説明できる。	
6	感覚②	一般感覚の種類、内容について説明できる。	
7	感覚③	嗅覚、味覚について説明できる。	
8	感覚④	目の生理学的機能、視覚について説明できる。	
9	感覚⑤	聴覚、前庭感覚について説明できる。	
10	生殖①	発生学的観点から、生殖系について説明できる。	
11	生殖②	男性生殖器とその機能について説明できる。	
12	生殖③	女性生殖器とその機能について説明できる。	
13	骨①	骨の構造と成長について説明できる。	
14	骨②	カルシウム代謝と内分泌、ビタミンとの関係について説明できる。	
15	試験返却	試験返却【後期で学んだ全範囲】 筋、感覚を中心とした生理学について説明できる。	

科目名 【英】	コンディショニングトレーナー講座 Course of Conditioning Trainer Skill			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	金曜日	時限	7

担当教員	栗若 伸一	実務者経験	2006年4月～2021年9月現在 桃山学院大学アメリカンフットボール部 2019年6月～2021年9月 現在 Vリーグ DENSO AIRYBEES S&Cトレーナー
------	-------	-------	---

学習内容	現場におけるトレーナー活動に必要な基礎知識と実技能力の習得
到達目標	柔道整復師及びトレーナー業務実施時に活用できる基本的な知識と技能が身についている

準備学習 時間外学習	特になし
使用教材	決まった教科書が無いので、必要資料をプリントにて配布
留意点 備考	

成績評価	出席&平常点30% / レポート70%
------	---------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	トレーナーとは トレーナーの役割	トレーナーの職業区分、必要な知識、技術、行動と倫理について説明ができる。
2	トレーニングの基礎/ 筋力トレーニング実技 1	基礎筋生理学/自重による基本的筋力トレーニングの実技を行うことができる。
3	トレーニングの基礎/ 筋力トレーニング実技 2	基礎筋生理学/自重による上肢筋力トレーニングの実技を行うことができる。
4	アスレティックトレーナーとは/ 傷害評価	アスレティックトレーナーの職業区分、必要な知識、技術、行動と倫理について 足関節、膝関節における傷害評価について説明ができる。
5	トレーニングの基礎/ 筋力トレーニング実技 3	基礎筋生理学/自重による下肢筋力トレーニングの実技を行うことができる。
6	体幹トレーニングの 理論と実技	体幹トレーニングの基礎知識 体幹強化のためのトレーニング実技を行うことができる。
7	機能的動作とトレーニング	ファンクショナルトレーニングの考え方について説明ができる。
8	動作評価と機能改善 1	基礎解剖学/姿勢分析/FMS、SFMAを用いた動作分析について説明ができる。
9	動作評価と機能改善 2	基礎解剖学/分析を基に行うファンクショナルトレーニングの処方について説明ができる。
10	ストレッチ実技	スタティックストレッチ及びペアストレッチの実技を行うことができる。
11	ウォーミングアップ実技	ダイナミックストレッチ、ムーブメントプレパレーションの定義と実技を行うことができる。
12	ストレッチポール実技	ストレッチポールの利用方法及び実技を行うことができる。
13	栄養学の基礎	栄養に関する基礎理論 体重の増量と減量について説明ができる。
14	熱中症と脳振盪	スポーツ現場で実施される予防と対策/評価方法の実際について説明ができる。
15	最新のトレーニング アプローチについて	PRI、DNS、VBT、動作学の情報について説明ができる。